

授業 科目名	【G】	教養講義(スポーツ社会学)	区 分 選 択	開講年次	【G】1	単位数	【G】2	
	【H】	教養講義(スポーツ社会学)			【H】1		【H】2	
	【I】	教養講義(スポーツ社会学)			【I】1		【I】2	
科目区分	基本科目							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	現代および未来の社会における、望ましいスポーツ文化／社会のあり方について考える			担当者	青柳 秀幸			
授業概要	【概要】	スポーツ事象やスポーツ界は、個人やアスリートだけが発生させたり、形成しているわけではない。現代のスポーツは、教育・ジェンダー・政治・人権などを含む、私たちの社会生活の様々な側面と連関する大きな文化現象、社会的な存在でもある。本講義では、スポーツの文化・社会的な側面を理解し、現代および未来の社会における、望ましいスポーツ文化のあり方について考える。						
	【到達目標】	【知識・技能】 スポーツを「文化」および「社会」との関係から理解し、多角的に洞察することができる 【思考力・判断力・表現力】 現代および未来の社会における望ましいスポーツ文化／社会のあり方について、建設的かつ批判的に考察することができる 【主体性・多様性・協働性】 先行研究や他者の見解に対して、自らの見解を相対化して文章表現することができる						
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・「スポーツ法コース」の学生は「現代社会とスポーツ」の単位を修得済みであるか、2年次以上であること ・「法学コース」と「情報と法コース」の学生は「現代社会とスポーツ」を履修しているか2年次以上であることが望ましい ・他者の学びの時間・環境を尊重すること 							
アクティブ ラーニングの 方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【○】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【○】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【○】	PBL	【○】	レポート・解答内容の講評
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	◎ (よく当てはまる)						
他科目との 関連性	「現代社会とスポーツ」で学ぶテーマの一部を本講義でも取り上げる。「現代社会とスポーツ」を基礎編、本講座を個別具体編・応用編と位置づける。							
教科書	井上俊・菊幸一編著(2014)よくわかるスポーツ文化論. ミネルヴァ書房							
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。							
評価方法	講義内・外のミニ課題90%、授業への取り組み及び貢献など10%。単位認定には、授業数の2/3に相当する10回以上の出席を必要とする。授業や予習・復習に真摯に取り組む優れた成果及び成績を修めた受講生には、課題を1部を免除する場合がある。〈知識・技能〉〈思考力・判断力・表現力〉は、予習および復習に関するミニ課題で評価する。〈主体性・多様性・協働性〉は、受講態度、ペアワークやグループディスカッションへの参加態度・貢献度、ミニ課題提出率で評価する。授業に関する不適切な言動は減点および指導対象とする。							
フィードバック 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準に則ってミニ課題を評価し、適宜返却・フィードバックする ・ミニ課題の内容の一部を授業で紹介し、授業内で教員が講評する 							
評価基準	到達目標に掲げた内容および授業内容をよく理解し、自らの言葉で適切に説明、文章表現できた者はその程度に応じて「S」または「A」、理解内容や表現に何らかの不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、理解内容が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。なお、出席要件を満たさない場合や最低限の評価に必要な課題の未提出など、評価不能な場合は「F」とする。							

授 業 科目名	【G】	教養講義（スポーツ社会学）	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
	【H】	教養講義（スポーツ社会学）	選 択		【H】1		【H】2
科目名	【I】	教養講義（スポーツ社会学）			【I】1		【I】2
授業回数	授 業 内 容						
1	ガイダンス：授業の目的、内容、評価方法の確認。スポーツ社会学概論：社会学とはどのような学問か？ 予習： シラバスを通読する。スポーツと文化、社会との接点、関係を考える 復習： ミニ課題への取り組み、省察（90分）						
2	「スポーツ」「体育」「文化」「社会」とは何か？：「日本」と「社会」の視点から 予習： 根拠に基づいた情報元からスポーツと文化、社会との関係を探る 復習： ミニ課題への取り組み、省察（90分）						
3	「スポーツ」「体育」「文化」「社会」とは何か？：「諸外国」と「社会」の視点から 予習： 日本の事例を手がかりに諸外国の事例を探る 復習： ミニ課題への取り組み、省察（90分）						
4	「スポーツ」「体育」「文化」「社会」とは何か？：「現代における国際社会」の視点から 予習： 国際的な話題として挙げられている／いたスポーツ事象を調べる 復習： ミニ課題への取り組み、省察（90分）						
5	スポーツと教育：「現代における国際社会」の視点から 予習： UNESCO：体育・身体活動・スポーツに関する国際憲章を読む 復習： ミニ課題への取り組み、省察（90分）						
6	スポーツと教育：「オリンピック・ムーブメント」の視点から 予習： オリンピック憲章、Olympic Values Education Programmeを読む 復習： ミニ課題への取り組み、省察（90分）						
7	スポーツとジェンダー：東京2020、パリ2024を中心に 予習： 「大会」のコンセプト、目標を調べる 復習： ミニ課題への取り組み、省察（90分）						
8	スポーツとジェンダー：人権をキーワードにして 予習： ジェンダー、人権との関わりから自身のスポーツ経験を振り返る 復習： ミニ課題への取り組み、省察（90分）						
9	スポーツと政治：日本と社会をキーワードにして 予習： 根拠に基づいた情報元からスポーツと政治との関係を探る 復習： ミニ課題への取り組み、省察（90分）						
10	スポーツと政治：国際社会をキーワードにして 予習： 日本の事例を手がかりに諸外国の事例を探る 復習： ミニ課題への取り組み、省察（90分）						
11	アスリートと社会：学生をキーワードにして 予習： アスリート、社会との関わりから自身のスポーツ経験を振り返る 復習： ミニ課題への取り組み、省察（90分）						
12	アスリートと社会：トップアスリート、オリンピック・パラリンピアンをキーワードにして□ 予習： 自身にとってのロールモデル、反面教師のアスリートを探る 復習： ミニ課題への取り組み、省察（90分）						
13	ポスト・スポーツを考える：ソーシャルなアスリート、テクノロジーをキーワードにして 予習： 5年後、10年後、50年後の日本のスポーツ界を想像する 復習： ミニ課題への取り組み、省察（90分）						
14	ポスト・スポーツを考える：第13回までの学びを総合して 予習： スポーツと「文化」および「社会」に関する興味・関心や感情を整理する 復習： ミニ課題への取り組み、省察（90分）						
15	現代および未来の社会における、望ましいスポーツ文化、アスリートのあり方について考える 予習： 自身が設定した観点に関する最新トピックスを調べる 復習： ミニ課題への取り組み、省察（90分）						
その他	予習および復習は、それぞれ90分程度を目安にしてください。それらの学びと授業時間内での学びを総合することで、到達目標の達成が見込めます。授業では、ペアワークやグループディスカッション、発言、質疑応答の機会を設けます。スポーツパーソンシップを意識した積極的な参加・発言・協調を歓迎します。						